

# かわさき 図書館だより



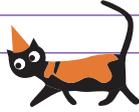
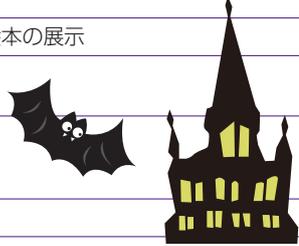
図書館ホームページ:<http://www.library.city.kawasaki.jp/>



## かわさき読書週間 イベント情報

10月25日(日)~11月7日(土)は「かわさき読書週間」です!

「読書のまち・かわさき」では、「かわさき読書の日」(11月第1日曜日)をはさんだ2週間で「かわさき読書週間」とし、図書館や学校などで様々な取り組みを行っています。今年も読書週間を中心に、子どもから大人まで楽しめるイベントを開催いたします。ぜひご参加ください。

図書館名	開催日時	内容	2015	
川崎図書館 大師分館 田島分館	11月 8日(日)	川崎・大師・田島合同企画「おはなしキャラバン」 紙しばい・パネルシアター・てあそびなど 会場：アトレ川崎 1階 ツバキひろば	2015	
幸図書館	10月 1日(木)	大人のためのおはなし会～耳から楽しむ「昔ばなし」の世界へようこそ～		
	10月28日(水)	10月のおはなし会		
	11月 4日(水)	フロンターレ人形劇とOB選手の読み聞かせ会		
	11月 7日(土)	大人のための朗読会		
	11月13日(金) ～11月18日(水)	展示「わたしたちの夢見ヶ崎動物公園」		
日吉分館	11月18日(水)	おはなしワールド 外国語と日本語による絵本の読み聞かせや言葉遊び		
	10月24日(土)	リユース本配布会		
中原図書館	10月24日(土)	ストーリーテリング秋のおはなし会		
	10月31日(土) ～11月 1日(日)	ぬいぐるみおとまり会		
高津図書館	10月31日(土) ～11月 3日(火)	なかはら子どもとしゃかん本の森 絵本の読み聞かせ(11月2日を除く)・絵本展示・学校図書館などのボランティア紹介展示 ほか		
	10月18日(日)	秋のおたのしみ会 親子で科学の玉手箱「磁石を利用したクルクル回転ごまを作ろう」		
橘分館	10月24日(土) ～11月 2日(月)	高津区の読書活動紹介展示 図書館で活動しているグループや学校図書館の活動紹介・ポスター・作品 展示 ほか		
	11月 7日(土) ～11月 8日(日)	リユース本の配布・本の展示 等		
宮前図書館	11月 8日(日)	どんぐり広場 紙芝居中心のおはなし会、おすすめ絵本の展示		
	10月 2日(金) 10月 3日(土)	布の遊具を作ろう!		
11月 6日(金) ～11月11日(水)	「みやまえ読書の日・本とお話の一週間」 人形劇・おはなし会・ミニ講演・子どもの本の展示 わらべ歌や区内各文庫の活動紹介の展示 その他			
多摩図書館	10月24日(土)	秋のおはなし会		
	10月24日(土) ～11月 1日(日)	図書館で活動しているグループや学校図書館の活動紹介展示、おすすめの児童書の展示		
	10月27日(火)	山本一力講演会		
麻生図書館	11月 1日(日) 11月22日(日)	多摩区郷土史入門講座		
	10月24日(土)	音楽といっしょに絵本の世界にでかけよう		
柿生分館	10月30日(金)	大人が楽しむお話の会		
	10月24日(土) ～11月 8日(日)	柿生分館読み聞かせボランティアグループの活動紹介、絵本のリストの紹介・配布		
	10月31日(土)	一日図書館員		
教育委員会 指導課	11月 4日(水)	秋のおはなし会		
	11月 1日(日)	第13回かわさき読書の日のつどい 絵本作家・画家のかすや昌宏氏による講演会「こんぎつねと私」 読書活動優秀団体表彰式、児童生徒の入賞作品(読書ポスター・標語など)の表彰・作品展示		

予告なしに変更する場合があります。  
申し込み方法・会場など詳しくは図書館ホームページや各図書館(「読書の日のつどい」は教育委員会指導課 電話044-200-3243)へお問い合わせください。

小倉美恵子  
講演会

消えゆくもう一つの川崎を描く

マンション・住宅が立ち並び川崎市宮前区土橋。高度成長期以前は50世帯程の小さな農村だったとは、想像できるでしょうか。

『オオカミの護符』『うつし世の静寂に』の2本の映画を製作し、故郷川崎の民俗文化を記録された小倉さん。都市へと急速に変貌を遂げた川崎の、伝えていきたいもう一つの姿を映像とともにご紹介いただきます。

日時 平成27年11月19日(木)  
午後6時30分～8時30分  
会場 中原市民館 多目的ホール  
(武蔵小杉駅下車)  
対象 関心のある方はどなたでも  
先着300名  
申込み 10月23日(金) 午前10時から  
市立図書館・分館・閲覧所カウンター  
にある申込書と引き換えに整理券を配布  
します。  
(お1人2枚まで、参加無料)  
問合せ 中原図書館  
(電話044-722-4932)  
※10月23日(金) 午前10時から上記電  
話番号にて電話での申込みも受け付  
けします。

『うつし世の静寂に』上映会  
講演会に先立って『うつし世の静寂に』  
の上映会を中原図書館で行います。

日時 11月7日(土) 午後2時～  
会場 中原図書館 6階多目的室  
先着60名。当日直接会場へ  
お越しください。



—講師紹介—

小倉 美恵子(おぐら みえこ)

文筆家、映画プロデューサー、  
株式会社プロダクション代表  
1963(昭和38)年 川崎市土橋生まれ。  
2006(平成18)年に株式会社プロダク  
ションを設立。2008年、映画『オオ  
カミの護符—里びとと山びとのあわい  
に—』で文化庁映画賞文化記録映画優  
秀賞、地球環境映像祭アース・ビジョン賞を受賞。2011年  
書籍『オオカミの護符』(新潮社刊) 上梓。映画は2010年『う  
つし世の静寂に』公開、2016年『ものがたりをめぐる物語』  
公開予定。



—著書紹介—

『オオカミの護符』  
宮前区土橋の農家に生まれた著者が、  
幼い頃から気になっていた土蔵の「オ  
イヌさま」の護符。その正体を探り、  
一人で家庭用ビデオカメラを片手に  
始めた取材から、次第に仲間ができ映  
画『オオカミの護符』が誕生しました。  
急速に開発が進む中で、代々受け継が  
れてきた山岳信仰の世界に触れる1  
冊。2014年文庫化。



新潮文庫

川崎フロンターレと本を読もう!

今年もサッカーJ1チームの川崎フロンターレと協働でサッカーと読書を盛り上げる  
活動をしています。

人形劇団ひとみ座によるフロンターレキャラクター人形劇&選手おはなし会

宮前図書館 10月22日(木)

幸図書館 11月 4日(水) ※詳細は各館にお問い合わせください。

リーフレット「キックオフ!“読書のまち かわさき”」Vol. 7

フロンターレ選手が推薦する図書を掲載したリーフレットを今年も作成しました。今年のテーマ  
は選手の「おすすめ本ガチンコバトル!!」。読みたい本の投票で、抽選でフロンターレホームゲー  
ムにご招待(応募は2015年11月末まで)。10月14日(水)から配布予定ですので、ぜひご覧ください。



# 宮前図書館 開館から30年記念展示

## ～あの頃といま～

開催中

宮前図書館・麻生図書館が開館して30年をむかえました。  
宮前図書館では、開館30年の記念展示を行っています。その一部を紙上でご紹介いたします。

1982年(昭和57年)に宮前区が高津区から、麻生区が多摩区から分区し、現在の7区になりました。宮前図書館はその3年後、1985年7月16日に宮前市民館と一緒に、宮前文化センターとしてオープンしました。1985年(昭和60年)の区政概要には宮前区について次のように書かれています。

「宮前区の都市化は昭和30年代の高度成長期に始まり、昭和33年野川地区、昭和37年有馬・土橋地区、昭和38年宮崎地区に相次いで、土地区画整理事業が開始され、昭和41年には田園都市線が長津田駅まで開通し、宮崎台・宮前平・鷺沼の3駅が誕生した。

この田園都市線の区内貫通により、第3京浜道路・東名高速道路の完成と相まって宮前区の交通が飛躍的に向上され、これに伴い東京指向型の大規模住宅団地が相次いで建設されていった。

反面人口急増・地価高騰、それにつれて農業生産、自然緑地の減少など新たな問題を引き起こした。こうした急激な都市化と人口急増により、宮前地区と向丘地区は、高津区から昭和57年分離し新区として誕生した。

宮前区は、人口増加による区民の行政需要に対応するため、区役所・保健所・福祉事務所棟を総合庁舎として整備、更に昭和60年には市民館・図書館・消防署・水道営業所等の公共的施設があいついで開設（-後略-）」

「区政概要(昭和60年版) 川崎市市民局区政課 発行」より

### ◎人口・蔵書冊数の変化

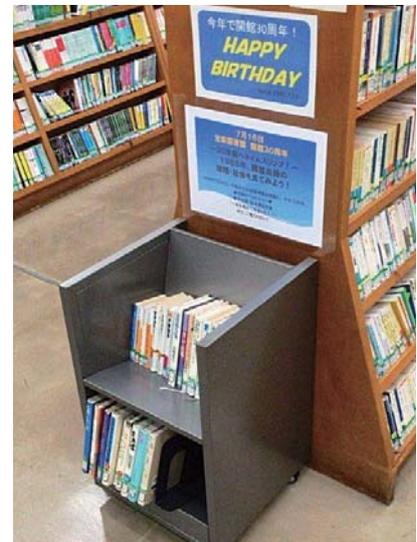
	宮前区の人口	宮前図書館の蔵書冊数
1985年(昭和60年)	155,922人	64,756冊
2014年(平成26年)	224,648人	249,789冊

### ◎自動車文庫たちばな号

1985年に宮前図書館と麻生図書館が開館すると同時に中原図書館から移管され、高津区・宮前区を宮前図書館、多摩区・麻生区を麻生図書館、川崎区・幸区・中原区を中原図書館で担当し3台で運行していました。現在は市内全域を(川崎区から麻生区まで)宮前図書館が担当し、1台で公園など21ヶ所で本の貸出・返却を行っています。



1985年10大ニュース新聞



1985年ベストセラーミニコーナー



自動車文庫たちばな号

## 図書館長

# お薦めの一冊



このコーナーでは、川崎市立図書館の館長がお薦めの1冊をご紹介します。

中原図書館長 鈴木 隆

### ■こんな本屋さんがあった

武蔵新城駅近くに小さな書店があった。長髪で丸いメガネの男の店番がいて、美術書がさりげなく並んでいた。その書店の本のカバーがしゃれていて、女の子が教室のストーブの横で居眠りをしている。絵の隅に「藤原マキ」と書かれていた。その店番が、「サルビアの花」の作曲者の早川義夫さんで、お店の名前は早川書店。早川書房とよく間違われたという。この歌が売れたおかげで本屋さんを開業できた

とも書いている。自分が並べたい本を書店に出すためにどうしたか。それは早川さんが書いた『ぼくは本屋のおやじさん』(晶文社1982年刊、その後ちくま文庫2013年刊)を読めばよくわかる。リュックを背負って小さな取次をまわり、本を仕入れていく。そんな努力が、特徴のある本を書店に並べていく。小さな書店には、ベストセラーが配本されないことがあり、お客さんから予約されると大型書店から購入して提供したりすることもあるという。残念ながら、この本屋はもうない。早川さんは今、改めて歌を歌っている。



『ぼくは本屋のおやじさん』  
早川義夫／著 晶文社

### ■中原図書館

2013年に東横線武蔵小杉駅に直結したビルの5・6階に移転しました。1日の入館者が5千人を超える日もあり、昨年度の入館者数は125万人を超えました。平日は夜9時まで開館しておりますので、お仕事帰りの際などにもぜひご利用ください。

## 第27回

このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介しています。今回は、「多摩川と文学」にスポットをあてて紹介します。



**A：『多摩川のむかし話』** 石井作平／著 池田仙三郎／絵 有峰書店 1976  
多摩川にすむ、フクロウ、キツネ、タヌキ、ウナギなどの身近な動物や、カッパ、テング、亀などの興味深い話が綴られています。

多摩川を愛する作者が多摩川にまつわる昔話や、言い伝えを子どもたちにわかりやすく伝えられるようにまとめた1冊です。

### B：『大幸運食堂』

明川哲也／著 PHP研究所 2011

多摩川の周りに住む人々の人間模様が描かれた短編集です。

川のほとりで農業を営む夫婦、多摩川を探検する少年たち、多摩川でバードウォッチングする親子、「大幸運食堂」という食堂を営む主人の話など、8話が収録されています。

それぞれの物語がすこしずつつながっていることや、物語の中のでてくる多摩川の景観、自然の記述などが読み進むうちに見つかり、臨場感がわいてきます。



B

### C：『川崎の文学を歩く』

杉山康彦／著 多摩川新聞社 1992



C

川崎を舞台にした文学や、岡本かの子、国木田独歩、山田太一をはじめ数々の作家についての作品や人物像が多摩川、大山街道、南武線、小田急線、東海道などにそって、紹介されています。

第一章の「多摩川を遡る」では、多摩川の公園、神社、寺、宿場などにまつわる具体的な記述があります。多摩川の歴史や文学の背景がよくわかり、より身近に感じられます。

### D：『神奈川の文学碑』

浜田建治／著 公孫樹舎 2012

文学碑を愛する作者が、神奈川県内の文学碑の分布や建立状況を紹介しています。それぞれの文学碑に書かれている詩や作家とその土地との関係、エピソードなどを交えながら、碑をめぐる歩いていくスタイルで綴られています。この本の中に高津図書館前の国木田独歩の碑、岡本かの子の碑も紹介されています。

編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-1301 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橘分館(788-1531)  
幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918) 田島分館(333-9120) 柿生分館(986-6470)  
中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400) 日吉分館(587-1491) 菅覧所(946-3271)